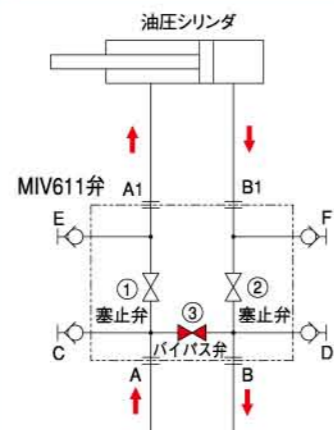
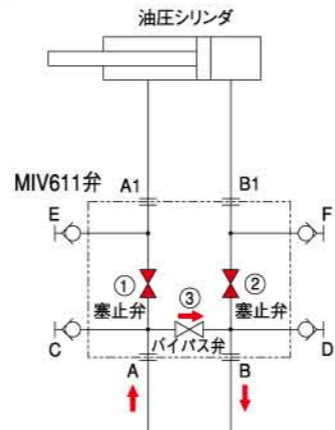


常用操作時



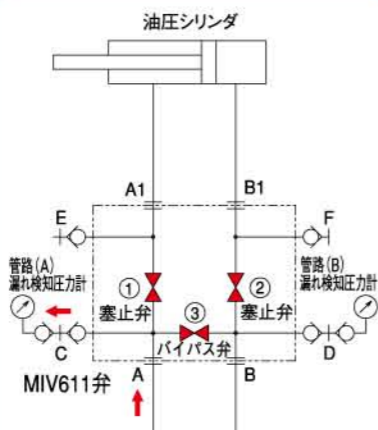
- ◆弁①②を開状態、弁③を閉状態とします。
- ◆油圧ユニット～油圧シリンダの回路がつながり、水門の操作が可能な状態となります。

循環操作時



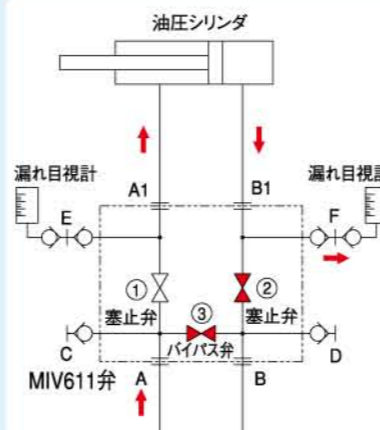
- ◆弁①②を閉状態とし、弁③を開きます。
- ◆油圧ユニット～MIV611弁間の回路が短絡し、この間の循環が行えます。

管路漏油診断時



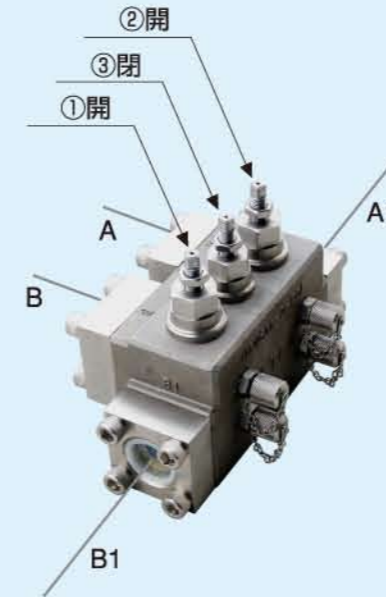
- ◆弁①②③を閉状態とし、入口(A)を加圧します。
- ◆油圧ユニット出口のストップ弁を閉じ、圧力計による封入圧力の降下時間の長短で漏油の判定を行います。
- ◆逆回路についても同様に(B)側での操作が確認できます。

油圧シリンダ漏油診断時

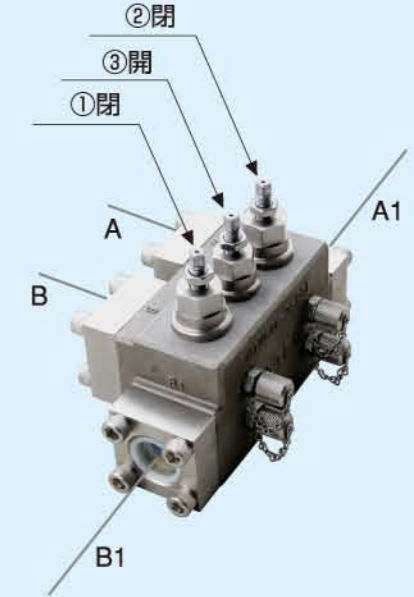


- ◆シリンダ引込端にて弁②③を閉状態とし、弁①を開き、入口(A)から加圧します。
- ◆弁を開くと、(F)に取付けた「漏れ目視計」の表示状況から、シリンダパッキンの良否の診断ができます。
- ◆シリンダ出端にて弁①③を閉状態とし、弁②を開き、入口(B)から加圧、弁を開くことにより、逆作動によるシリンダパッキンの良否の診断ができます。

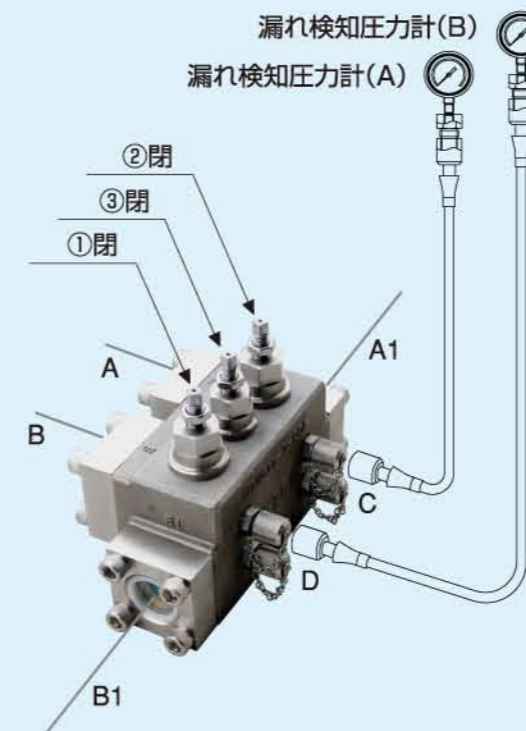
常用操作時



循環操作時



管路漏油診断時



油圧シリンダ漏油診断時

